NIE実践報告

1．タイトル：☆社会をとらえる

2．学校名

奈良県国立大学法人奈良女子大学附属中等教育学校

3．実践者名（代表者名）

二田貴広

4．学年

第3学年（前期課程）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　123人

6．単元（本時の学習課題）名

社会をとらえる

7．目標（狙い）

①記事や文章の論理的な矛盾や不十分さの指摘、価値観の捉えなおしができるような態度と能力とを育む。
②この授業での学習内容が、生活の場においてどのように役立てられるのか考える態度を育む。
③この授業での学習内容が、国語の他の学習においてどのように役立てられるのか考える態度を育む。

8．評価の視点

授業中における態度と課題の解決能力に加え、事前学習の内容を評価の対象とする。
具体的には、「新聞記事に書かれた価値観を捉えられているか」「わかりやすく発表できるか」「他者の発表を上手に聞きメモできているか」「事前学習に取り組み課題を解決できたか」が評価の視点である。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

総時間数約90時間のうち、本単元は5時間を配当した。なお、教科書教材（光村図書）の「新聞の特徴を生かして書こう」「２つの記事を比べてみよう」「生き物として生きる」を単元の学習に組みこみ、NIE学習と説明文の読解学習とを関連づけて読解力を育成できる単元を構成した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1時：殉職警察官についてのコラム「余禄」を読む。
第2時：近畿大学英語村E3[e-cube]についての記事と海外航空会社の価格競争についての記事を読む。
第3時：「新聞の特徴を生かして書こう」を読む。「2つの記事を比べてみよう」というワークに取り組む。
第4時：「生き物として生きる」に述べられている論理や価値観について検証する。
第5時：リサイクルインクカートリッジについての記事から価値観を読み取り、発表する。（本時）

（留意点）
・前時の学習内容を生かして学習に取り組ませる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・筆者が言いたいことを、様々な部分から読み取り、理解することができるようになった。
・各新聞を比べて、それぞれどのようなことを主体にして、伝えたいのか考えることができた。
・今まで何も考えずにダラダラと読んでいただけだった新聞に「話の筋通ってないやん。」とか「説明ちゃんとできてない」などの批判ができるようになった。

12．成果と課題

中学3年（123名）・保健、高校2年（選択者25名）・文化と社会（※学校設定科目）、中学1年（123名）・国語で取り組んだ。本実践を含み、5名の教員で取り組んだ。保健では生徒の生活と結びついた記事を毎時間スクラップブックに貼らせて感想を添えて提出させた。